

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙) 掲載

4 本校の参加状況

① 国語 113人

② 算数 113人

5 留意事項

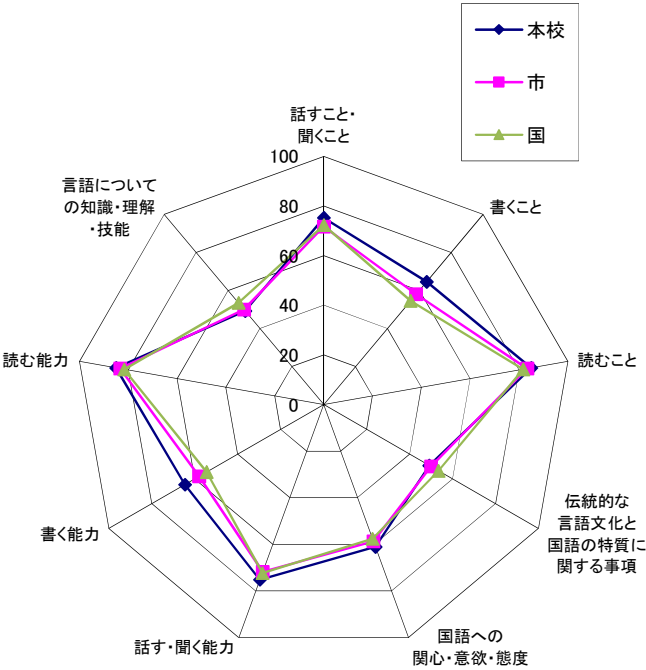
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.2	71.8	72.3
	書くこと	64.6	58.0	54.5
	読むこと	85.0	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.2	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	61.1	58.7	57.6
	話す・聞く能力	75.2	71.8	72.3
	書く能力	64.6	58.0	54.5
	読む能力	85.0	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	49.2	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

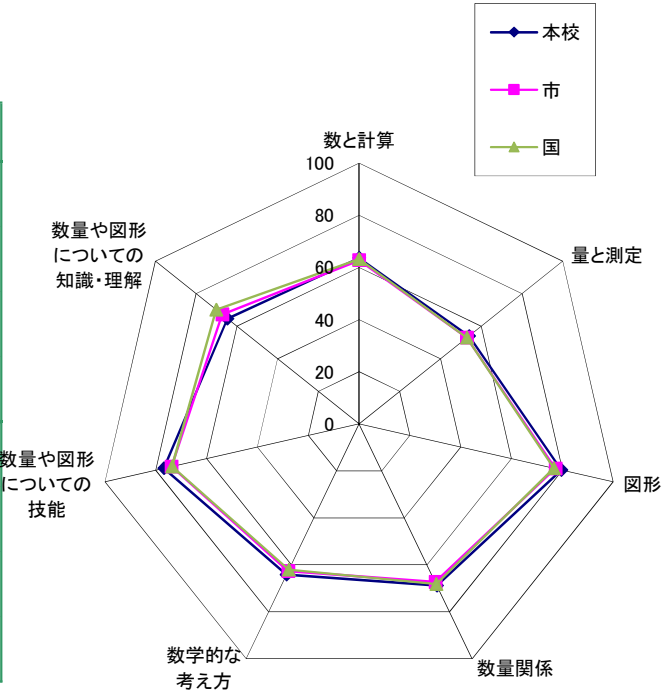
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○目的に応じて、質問を工夫する問題では、全国 の正答率を5.2ポイント上回った。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをま とめる問題では、全国の正答率を1.8ポイント下回っ た。	・記述式の問題では、無答率が15.0ポイントと高いことか ら、文章を書くことに苦手意識があることが考えられる。そ のため、日々の様子や行事ごとに作文を書く機会を多くも てるようにする。
書くこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題で は、全国の正答率を11.1ポイント上回った。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確 にし、まとめて書く問題では、全国の正答率を10.1ポ イント上回った。	・良好な結果なので、これからも目的や意図に応じ、文章 の内容をまとめる活動や、自分の考えの根拠を明らかに して整理する活動を取り入れていきたい。
読むこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的 に読む問題では、全国の正答率を7.1ポイント上 回った。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分 の考えを明確にしながら読む問題では、全国の正 答率を1.5ポイント上回った。	・良好な結果なので、これからも大切な事柄に線を引いた り文のつながりを考えたりしながら、筆者の意図や書かれ ている内容を正確に読み取れるようにする。
伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	平均正答率は全国正答率を下回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中 で正しく使う問題①では全国の正答率を9.6ポイント 上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中 で正しく使う問題③では全国の正答率を13.5ポイント 下回った。	・漢字テストへの目標をもった取組や、日々の反復練習を 実践していくとともに、新出漢字のみならず既習漢字も 日々のノートへの記入や作文での活用ができるようにす る。 ・幅広い分野の読書を勧めたり、国語辞典や漢字辞典を 日常的に利用させたりして、語彙力を広げるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.6	62.7	63.2
	量と測定	54.0	52.9	52.9
	図形	79.6	77.3	76.7
	数量関係	68.9	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	64.2	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	76.8	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	64.6	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題では、全国の前答率を7.2%上回った。 ●示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題では、全国の前答率を2.3%下回った。	・朝の学習や家庭学習で今後も繰り返し学習を行い、基礎的な計算力を身に付けさせる。 ・二つの数量の関係を一般化して捉える問題では、どのような数量関係が成り立つか予想したり、数値や場面を変えても同じような関係が成り立つか考えたり、理由を説明したりする活動を行い、数量の関係を言葉や式で表現できるようにする。
量と測定	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述で答える問題では、全国の前答率を1.2%上回った。 ●場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題では、全国の前答率を1.5%下回った。	・量の比較や測定についての問題では、直接比較だけでなく、長さやかさ、重さなどのそれぞれの量を、同種の量のいくつ分という数値に置き換えて比較する任意数値による比較で、大きさの違いを実感できるようにする。
図形	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題では、全国の前答率を7%上回った。 ●台形についての理解度を測る問題では、全国の前答率を1.1%下回った。	・デジタル教科書を活用して図形のイメージをもたせるとともに、具体物を操作したり作図する活動を行ったりして、実感を持って理解できるようにする。 ・展開図から立体の面の位置を考える活動では、展開図を組み立てたり、立体を切り開いたりする経験を多く積ませることで、立体の平行や垂直になっている面が、展開図のどの位置に当たるのかが、念頭で理解できるようにする。
数量関係	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○資料の特徴や傾向に関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では、全国の前答率を3.7%上回った。 ●示された除法の式の意味を理解する問題では、全国の前答率を9.8%下回った。	・計算ドリルやプリントを使って、復習を繰り返し行い、定着度を高めるように指導する。 ・社会科のグラフ資料や理科の実験結果を示すグラフの読み取りの際にも、目盛りの読み取り方などを意識するように指導する。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」と肯定的な回答をした児童の割合は、92.9%で、全国の割合81.2%を大きく超えている。また「将来の夢や目標をもっている」に肯定的に回答した児童の割合は85.7%で、全国を2.9ポイント上回っている。夢いっぱいプロジェクトなどで、目標を立て、方法を考えて達成し、また次の目標につなぐプロセスと、それを児童同士や教師が認め励ましてきた成果であると考えられる。今後も活動を継続し、児童を認め励ます機会の確保に努める。

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に肯定的に回答した児童の割合が69.9%で、全国の54.5%を15.4ポイント上回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に肯定的に回答した児童の割合が77.9%で、全国の68%を9.9ポイント上回っている。5学年時に地域の方々と「船頭鍋」を作り試食する活動や、6学年時に「清原ミュージックフェスティバル」に参加するなど、地域の行事等に積極的に関わる機会があり、地域の一員としての意識の向上がうかがえる。

●「毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか」に肯定的に回答した児童の割合が75.2%で全国の81.4%を6.2ポイント下回っている。学習塾や習い事等で、就寝時間のばらつきがあることも考えられる。規則正しい生活習慣の大切さを児童と確認するとともに、保護者とも協力・連携し、基本的な生活習慣の定着を図っていきたい。

●「国語の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童の割合が78%に対して「算数の勉強が好きですか」に肯定的に回答した児童の割合が67.2%と国語と比較して14.2ポイント低くなった。算数の単元の導入時に、生活とのつながりを感じられる課題を設定するなど、児童の興味・関心を高める工夫をしていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、ふりかえりを確実に 行うための工夫	黒板に貼る、めあて・まとめ・ふりかえり 等のカードを全教室に置き、どの授業でも 活用する。板書見せ合いの日を月に一 度設定し、カードの活用について確認し 合ったり互いに参考にしたりする。	「授業の内容がよく分かりますか」という質問につ いて、肯定的回答が国語では92.9%、算数では 88.5%あった。どちらも全国平均を大きく上回っ てる。
自分の考えをもち、豊か に表現できる力の育成	話し合いにおいて、ペアやグループ、全 体などの形態を工夫するとともに、発達 段階に応じた聞き方・話し方のスキルを 身に付けさせる。 国語を中心にした各教科で、自分の考 えを書いたり発表し合ったりする活動を 取り入れる。	「5年生までに受けた授業で、課題の解決に向け て、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いま すか」では、肯定的回答が、84.9%であった。「5 年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わ るよう工夫して発表していたと思いますか」では、肯 定回答が71.6%であった。どちらも全国平均を上 回ってる。
家庭学習の習慣化に向 けた指導の工夫	学年内で宿題の量や家庭学習のやり 方について共通理解を図る。学級活動で 家庭学習・自主学習のやり方を指導す る。担任が自主学習ノートの内容や提出 頻度を確認し、月に1回程度保護者が確 認する機会を作る。児童が互いの自主学 習ノートを見せ合い、良いところを参考に する話し合いを担任がリードして行う。	「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問 について、肯定的回答した児童は、77.0%であっ た。県の平均を下回っている。また、「学校の授業 以外の、平日の学習時間」1時間以上が、70.8% であった。県の平均と同程度である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、自分の考 えや理由、解き方などを記述する問題で 全国平均を下回るものがあつた。	それぞれの児童が自分 の考えをもち、互いに表現 する活動の充実	各教科等の授業において、どの児童も考えをもて るようにする発問や作業用紙の工夫をする。意見 の発表、順序や理由の説明など、場面に応じた記 述をする機会を設定し、スキルを身に付けられるよ うにする活動を取り入れる。